



日本だからこそできる 身の回りからの平和活動

ディーパック・K・サミダ 氏

(Deepak K. Samida)

北海道文教大学外国語学部国際言語学科 教授

インドダムタリ出身。米国留学で経済学を学ぶ。1975年以來札幌市に在住。米国の大学院日本校で第二言語としての英語教授法の修士課程を修了し、1999年創立時より北海道文教大学に勤務。趣味は旅行、読書、写真。



インド、アメリカ、そして北海道へ

インド中央州の小さな町ダムタリ出身です。高校生のときに、ボランティア活動で知り合ったスイス人の話を聞いて、自分の国のために尽くすなら国からお金をもらわないで、自分で商売をしてお金^{もう}を儲けようと考えました。街に薬屋さんが1軒しかなく、そこで見習いをして独立することにしたのです。

ところが、奨学金でアメリカの大学へ。そこで、札幌出身の女性と知り合って結婚することになり、妻がインドに行くより自分が札幌に住む方が難しくないだろうと、札幌にやってきて40年くらいです。

イメージとの違いに驚く

インドで勉強した日本のイメージは段々畑と絹で、アメリカでのイメージは安くて質の良い日本製品でした。私の自転車、カメラ、着る物、全て日本製。車もとても良いものでした。

アメリカから東京乗り継ぎで北海道へ。千歳から札幌まで段々畑も絹もなく、サイロがあり牛がのんびりしていて、アメリカかカナダのようでした。驚いたのはアパートの部屋が小さかったことと、小さくても畳とフローリングで、いちいちスリッパを脱いだり履いたりすることでした。

この40年くらいで感じた北海道の変化は風景です。かつてトウモロコシ、いもなどの畑が広がっていたのが、今は水田が多く米もずっと美味しく^{おい}くなりました。変わらないのは、札幌ではいつもどこかで工事をしていること。経済がいいと感じます。

世界中にたくさんの英語がある

いろいろな縁で、今は英語を教えています。初めは、アメリカ人でもイギリス人でもない、インド人の私が日本人に英語を教えることが不思議でしたが、今は大きな意義を感じています。学生が卒業して世界を相手に仕事をするとき、コミュニケーション手段として必要なのが、アメリカ英語でもイギリス英語でもなく、ワールドイングリッシュです。イングリッシュの複数形です。いろいろな国の人が話す英語、今は英語も多様性が求められています。世界中のコミュニケーションの手段としての英語は、アメリカ人でもイギリス人のものでもなくて、話している人自身のもの、ということです。

薬屋さんにはなれませんでした、今は、天職に巡り会えたと思っています。

私からのメッセージ

私の体験から、学生にはボランティアを経験してほしい。ボランティアは他人のためのように見えて、実は、自分のための教育の時間だったと分かりました。その経験は社会に出てから様々な活きてきました。

日本の方にもメッセージがあります。それは平和活動の必要性です。平和な世の中をつくるには、身の回りの小さなことから始めることが大事です。なぜ日本人にできるかというと、日本の社会環境が平和だからです。既に平和な環境で生活しているからです。そこで、もう一步、遠慮しないで積極的に行動してみてください。(談)

インタビュー日 2018年7月5日